

訪問介護に関するQ & A（今治市回答）

Q 訪問介護のいわゆる2時間ルールについて、前回提供した訪問介護から概ね2時間未満の間隔だと指定訪問介護ができないのか。また、通院等乗降介助についてはどうか。

A できないのではなくそれぞれの所要時間を合算して算定することになる。たとえば25分の訪問介護が2時間空けず2回入った場合、20分以上30分未満245単位×2回となるのではなく、30分以上1時間未満388単位×1回となる。通院等乗降介助については、2時間ルールの適用はない。

Q 生活援助について、同居の家族はいるが、仕事で忙しく掃除等をする暇がない。訪問介護で生活援助を入れてもかまわないか。

A 仕事で忙しくても休みのときに家族が掃除をすれば問題がない場合は、生活援助を入れるのは適切ではない。ただし、家族の心身の状況から掃除等ができない状態ならばプランに必要性を記入の上、生活援助は可能である。また、長期出張等で不在の期間が長く、かつ、本人が掃除等を行えない場合は、その期間生活援助で対応することもできる。

Q 生活援助について、同居の家族はいるが、関係が非常に悪く食事は出してくれても利用者の生活空間の掃除を拒否される。そのため、生活環境が悪化しており、利用者に健康上の問題が生じるおそれがある。このような場合に生活援助を入れることは可能か。

A このようなケースではやむを得ないため、プランに必要性を記入の上、暫定的に生活援助をいれ、清潔な生活環境を保つ必要がある。しかし、その状態が継続することは適切ではないため、家族にアプローチをかけ、援助拒否の状態が早期に解消されるよう努めていただきたい。

Q 生活援助について、2人で行った場合のコードが存在するが、どのような場合に生活援助を2人分で算定できるのか。

A 通知には暴力行為、著しい迷惑行為、器物損壊行為等が認められる場合とあるので、1人で訪問すると利用者が殴る蹴る等の行為をする場合や、セクハラ行為等を受ける場合に生活援助における2人体制が認められる。当然ながら、掃除が大変だから2人で行うというのは認められない。

Q 認知症のため、行き慣れた銭湯でしか入浴できない利用者がある。介助が必要だが、銭湯に訪問介護をいれることはできるか。

A 下記の条件のもと例外的に認める。なお、居宅サービスである訪問介護であるため、起点は居宅でなければならない、銭湯に利用者とヘルパーが現地集合することは認められない。

- ① 自宅に風呂がない又は利用できない。
- ② 訪問入浴や通所介護を利用できない。
- ③ ヘルパーによる入浴介助について銭湯の承諾がある。
- ④ 同性のヘルパーである。

Q 通院等乗降介助について、家族を同乗させてもよいのか。

A 家族の心身状態に問題がなければ、家族が乗り降りの介助をすればよく、そもそも通院等乗降介助を利用する必要性がなくなる。しかし、家族が高齢や疾病等により乗り降りの介助ができる状態ではないが、本人に認知症等があり、どうしても診察の結果を家族が聞いておかなければならない場合等の特段の事情がある場合は、認められる。不明な場合は、市に確認すること。

Q 病院受診時に通院等乗降介助を使っていたが、結果的にそのまま入院となってしまった。算定はできないのか。また、退院時に通院等乗降介助を使用することはできるか。

A あらかじめ入院が決まっている場合の往路には、通院等乗降介助は利用できない。しかし、通院の予定だったが、結果的に入院となってしまった場合は、往路について算定可である。また、退院時には在宅復帰に向けての生活支援に繋がるものであるため、復路について算定が可能である。

Q 通院等乗降介助が利用できるのは、病院受診を除いてどのような場合か。

A 日常生活上必要であれば認められる。今治市では次のものを想定している。

- ・日用必需品を購入するためのスーパー等
- ・生活費の引き出しや公共料金等の支払いのための金融機関
- ・自分が利用・入所する参考として見学を行うための通所事業所、施設等
- ・必要な手続きを行うための行政機関、投票を行うための公民館等
- ・身体状況を安定・回復させる上で必要と認められる場合に限った医療保険適用外の治療・施術を行う施術所等

Q 利用者が通院等乗降介助で病院に行き、受付まで済ませた後、他のヘルパーが身体介護で入り、受診等の手伝いをすることは可能か。

A 通院等に伴いこれに関連して行われる通院先での「院内の移動等の介助」は、通院等乗降介助に含まれるものであり、別に身体介護中心型として、算定できない。(通院等乗降介助に関する厚生労働省Q & A 及び通知参照)